

東大和市子ども・子育て支援会議 第1回議事録

会 議 名	平成26年度 第1回 東大和市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	平成26年5月23日(金) 14:00～15:30
開 催 場 所	東大和市立中央公民館2階 視聴覚室
委 員	(出席者)佐々木委員、網干委員、伊藤委員、寺山委員、水上委員、上田委員、坂本委員、片野委員、廣澤委員、仲里委員、住吉委員 (欠席者)なし
事 務 局	榎本(子ども生活部長)、高橋(子育て支援課長)、宮鍋(保育課長)、中村(青少年課長)、井上(狭山保育園長)、渡邊(保育課保育・幼稚園係長)、恵良(保育課子ども・子育て支援担当主査)、妹尾(保育課保育・幼稚園係主事)
傍 聴 者	2名
会 議 次 第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 自己紹介 4. 会長挨拶 5. 議事 (1)教育・保育等の量の見込みの補正について (2)新制度に係わる基準について (3)その他 6. 閉会
配 付 資 料	[事前配付] 資料1 委員名簿 資料2 基準案・量の見込みに係る新制度の主なポイント 資料3 教育・保育等の量の見込みの補正 資料4-1 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営基準(案)と市の現状・考え方 資料4-2 地域型保育事業の設備と運営の基準(案)と市の現状・考え方 資料4-3 放課後児童健全育成事業の設備と運営の基準(案)と市の現状・考え方 参考資料 子ども・子育て支援新制度 なるほど BOOK [卓上配付] 参考資料 子ども・子育て支援新制度について(内閣府資料)
会議の結果及び主要な発言	
事務局	1. 委嘱状交付 (子ども生活部長より仲里委員、住吉委員への委嘱状交付) 2. 自己紹介 (新委員及び職員の自己紹介) 3. 教育・保育等の量の見込みの補正について (資料3の説明) 学童クラブについて、ニーズ調査では一部の家庭のみの調査だったため、今週、1～5年生の全児童を対象に調査依頼を行った。これをもとに、学童クラブについては実際に近い量の

<p>会長 事務局 副会長</p>	<p>見込みが出せるのではないかと考えている。</p> <p>その調査は意向調査であり、申込みを早めるということではないということである。</p> <p>意向調査の内容は、高学年になった際の利用意向や利用時間などを聞いている。</p> <p>幼稚園の一時預かりの一日あたりの実績値が81名ということだが、1号と2号の区別は難しいか。また、この81名は一日でも利用した人か。</p>
<p>事務局 副会長 事務局</p>	<p>この中で1号と2号の区別は難しい。また、人数は各園に、普段、利用している人を聞いており、一日の平均人数を足した数字となる。</p> <p>人数として、実際にはもう少しいるかもしれないが、一日にならせばという人数でよいか。そのとおりである。</p>
<p>副会長 事務局 副会長</p>	<p>量の見込みでは、家庭類型で判断され、他の質問部分が加味されていないところがある。幼稚園と認可保育園に同じくらいの希望やニーズがあり、また、幼稚園の一時預かりが保護者に広まっていないことも含んでいただけるとありがたい。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>学童クラブについて、これから高学年まで利用できるとなった時、多くの場所で人数的に大変になることや、施設の老朽化について何か考えはあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今の定員のままで行えば待機児童は出てくるだろうが、国では受け入れを低学年から優先していくことを一つの例示として示している。そこで、低学年を優先していくと制度を変えただけで入れないということになるため、空き店舗など市内にある資源を活用していくことも考えられる。施設の老朽化は承知しており、大和東保育園の移設による跡地の活用を要望していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>放課後子ども教室は、スタッフがいないと充実できない。また、スタッフの世代交代も進んでいない。謝金の単価を上げて人材確保に努めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもたちの話だと、3年生くらいまでは嫌がらずに学童クラブに通っているようだが、自由な時間を求める年齢くらいになると、学童クラブに行くのを嫌がって自宅で留守番するなど、学童クラブをやめる子どももいると聞く。そうした子どもたちは、放課後子ども教室を利用しているようである。</p> <p>親として子どもをみてくれる場所があるのは安心だが、子どもの立場から考えるとどうなのかと感じている。スタッフは年配の方で、見てくれるありがたい環境にあり、そこに何かを求めるとはどうかと感じている。</p>
<p>会長 事務局</p>	<p>放課後子ども教室は新制度の範囲に入ってくるのか。</p> <p>範囲には入ってこない。なお、三多摩26地区の調査によれば、学童クラブに求めているのは親に代わってみてもらうこと、放課後子ども教室には子どもの居場所が保護者から求められ、棲み分けがされている。東大和市でも同様ではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>放課後子ども教室は居場所づくりとして週2日程度やっており、宿題や体育館での遊びを行い、主に4年生以上が来ている。学童クラブとそれほど内容は異なっていないと感じられる。ただ、学童クラブにさらに6年生まで入るのは厳しいのではないか。それらを考えれば、学校施設を開放し、スタッフを増やせれば対応できるだろう。しかし、ボランティアだけに頼っていると人は集まらない。保障や対価があれば、手伝ってくれる人が出てくるのではないか。</p>
<p>副会長</p>	<p>学童クラブについては、実情が分かってこないと難しいのではないか。これまで高学年の学童クラブがなく、また、塾や習い事も出てくる中で、どの程度整えていくのか、保護者はどのように利用するのか考えていかなければならない。</p> <p>すべて引き受ければよいのかというそうではなく、子育てを保護者と協働で進めていくた</p>

	<p>めには何が必要なのか、どのような就労状況であれ、どう受け止めていくか、どこまで許容していくかが大切である。</p> <p>また、補正は何を根拠に行ったのか。なお、学童クラブの合算数に相違があるのは何かあるのか。</p>
事務局	<p>学童クラブについては、日常的に面倒を見てくれる人と週1日の希望の人を控除した数値となっている。病児病後児保育は、日常的に面倒を見てくれる人を控除し、利用日数の分母を全体数としている。面倒をみる人がいない人を主としている。学童クラブの合算部分は精査していきたい。</p>
委員	<p>病児病後児保育について、乳幼児はよく病気にかかるが、保護者は現場で仕事をしている。仕事を休んで子ども看たいが、長期間休むことは難しく、どうしても病児病後児保育を利用しないと仕事を続けていけない。量の見込みは多いと感じられ、補正を掛けるべきだと思うが、病児病後児保育は今後、ニーズが増えるだろうから、そうしたことを加味してほしい。</p>
会長	<p>出てきた量の見込みをどう適正に補正することや、どのような観点をに入れていくかの意見をいただいた。</p>
	<p>4. 新制度に係わる基準について</p>
事務局	<p>(資料2、資料4-1、資料4-2、資料4-3を説明)</p>
副会長	<p>非常用物資の備蓄義務はどの程度か。</p>
事務局	<p>事業者の過度の負担とならないよう、2～3日分など、今後詰めていきたい。</p>
委員	<p>学童クラブについて、特別支援学級の子どもも利用しており、高いレベルの対応が求められるだろう。スタッフのレベルアップや、放課後子ども教室のスタッフの危機回避能力の向上に努めてほしい。</p>
事務局	<p>待機児童解消促進プランの前倒しもあるが、学童保育の待機児童解消プランも必要とされている。国の動向でも量の拡大が優先され、質の向上が遅れている中で、指導員のレベルアップが課題である。</p>
会長	<p>東大和市の独自部分についてはいかがか。</p>
副会長	<p>独自部分については賛成である。参酌すべき基準については、内容が実情と合っているかどうか検討させてほしい。</p>
会長	<p>従事すべき職員の質のニーズは高まるが、職員の確保が難しい。</p>
副会長	<p>東京都でも200園の保育園が増えて、補助がなければ人件費がかかり、質の向上が遅れている中で職員だけ増やすとしても、受け入れが難しい。</p>
会長	<p>有資格者などの人材の確保と掘り起しが難しい。経済的な部分ではなく、数の部分の問題となっている。また、議会の関係から、基準案はいつくらいまでの検討となるのか。</p>
事務局	<p>9月議会上程となると、7月末の庁議にかける必要がある。庁議の1カ月前には法規担当にかけるなければならない。</p>
会長	<p>遅くとも6月末位までに、参酌すべき基準について検討できればと思う。次回の会議で議事とし、量の見込みも同時に検討したい。</p>
副会長	<p>量の見込みは難しいだろう。国も7月までに補正をかけるとなったが、何を補正するのか難しい。</p>
会長	<p>国もかなり無理をしており、体制づくりにも時間がかかる。事務局も苦勞しているが、他自治体との関わりもある中で、できるところからやっていきたい。</p>

委員	保育士不足の中で、資格を持たずに補佐する方への補助も考慮してくれると、人材が見つかるのではないかと思う。
会長	次回の会議で基準について結論を出していきたい。
	5. その他
副会長	公定価格がまだ出ていない状況で、幼稚園には6月に今後の意向の決定とされていて苦慮している。決まった制度への準備はしているが、このままではなかなか難しいことを理解してほしい。
会長	従来どおりの幼稚園の道を選ばざるを得ない苦しい状況にある。
事務局	支援会議の予算を12回分確保しており、会議の回数を多く実施することも可能である。また、議会の厚生文教委員会で、保育園と学童クラブの待機児童の現状と課題の調査が始まっていることを報告する。
会長	以上で、会議を終了する。